

小心ズ

『ミスしゃっくりの幸せな一日』 A Day in the life of Miss Hiccups

ミスしゃっくりはひとりで暮らす一風変わった気高きご婦人。彼女の一日は奇妙な音やメロディにあふれ、退屈している暇もない。今日もまたミスしゃっくりのとくべつ愉快で美しい冒険の一日が始まる。さて彼女のしゃっくりが聴こえたら、あなたの目と耳と想像力、それに笑い声をたっぷりと使うとき!



小心ズ(しょうしんず):

コメディパフォーマンスユニット。

ヤノミ(本名:矢野裕美)は流山児★事務所での演劇経験を経て、2005年に相方とともに小心ズを結成。「小心者=些細なことにもビビッドに心ふるわせる、感受性と想像力ゆたかな愛すべき人々」をコンセプトに、劇場演劇という枠を超える自由で大胆な「大人の学芸会」を追求し、ライブハウス・クラブイベント・バー・路上・アートフェスティバル・教育施設・地域の祭りなど、幅広い場で意欲的に活動。

無言劇をベースとしながら、スキャットによる歌、踊り、ボディパーカッションなど、様々な身体表現によってコミカルにシーンを創り出す。ことばを使わずに、細やかな表情やしぐさ、そして圧倒的な生命力をもって物語をつむいで行く様子は、ユーモラスかつ美しい立体ファンタジーとして、あらゆる世代と人種を超えて人々に笑い、驚きと感動を与える。

2007年より海外での活動も本格的にスタート。

2009年には5週間にわたるアメリカ西海岸ツアーを成功させ、シアトル、サンフランシスコ、ロサンゼルスなど7都市において満場のスタンディングオベーションを受けるなど高い評価を得る。

2010年よりソロ活動をスタートし、シンガポール、アメリカ、カナダへの4ヶ月半にわたる長期海外ツアーを敢行。フリンジシアターフェスティバル(演劇祭)を主とした3カ国11都市にわたるこのツアーにおいて5つのアワードを受賞したほか、各都市の観客およびメディアから絶大な支持を受ける。

小心ズは国内外の多様なジャンルのアーティスト、地元の人々とのつながりも着実に育みつつ、広がりのある国際文化交流をつづけている。

受賞履歴



劇評

「これはお勧め。見逃す手はない」

Winnipeg Theatre

「スーパーキュートで、ひと癖もふた癖もあるショー。今年のFRINGE・ショーNo.1の座は『ミスしゃっくりの幸せな一日』で決まったのも同然だ。東京を拠点に活動するパフォーマー・小心ズの本領は、知的でどこかシュールなフィジカルコメディ。細部まで丁寧に作られたパフォーマンスの中で、その素晴らしく愉快的技をたっぷりと見せてくれる（音と動きが寸分なく合う様は見事。間の取り方も申し分ない）。愛嬌たっぷりで絶妙なテンポのひとり芝居。感覚が麻痺し切ったFRINGE・ファンさえも必ず喜ばせるに違いない」

The Montreal Hour

「才能に溢れた小心ズ・フィジカルシアターの女王が生み出すショーは、バカバカしくて子どものように、可愛らしくてお洒落。そんな魅力を一気に味わえる。心を驚つかみにされる」

Times-Colonist

「東京から来たコメディアン、小心ズの輝きは特筆ものだ。大きな丸メガネの愛らしい、不条理主義のクラウン「ミスしゃっくり」に扮し、毎日のごく当たり前の出来事の中に音楽、冒険、笑いを次々に見だしていく。…彼女にはまちがいはなくとんでもない才能がある。奇妙で、奇天烈で、予測のつかない『ミスしゃっくりの幸せな一日』。今年のFRINGEにおいて最も独創的なショーのひとつ」

Uptown Magazine

「もしも『セサミストリート』の作家陣がドラッグに酔って脚本を書いたら、どんなものになるだろう...?そんなことを思わせるパフォーマンスだった。…唯一無二の予測不能なショーは、大人も子供も楽しめる。私？もちろん、恋に落ちた。…彼女から目を離すことは不可能だ。いたずらっこのような魅力を振りまきながら、次々にサプライズをくれるミスしゃっくり。何ひとつ見逃したくなくて、瞬きをするのも惜しくなる。

小心ズはとてつもない才能の持ち主だ。音楽にぴたりと合わせる動きと笑いのツボを押さえた間の取り方には、文句のつけようもない。そしてあの目、特大のまつげで飾られた眼差しの表現力には感動を覚える。息もつかせぬ冒険の旅をミスしゃっくりとともにするうちに、時間はあっという間に過ぎていく。これほど素敵で楽しいコミカルなフィジカルシアターにはめったにお目にかかれない。劇場を出る私のあごは笑いすぎで痛くなっていた。」

Review Vancouver

「なんともばかばかしくて面白可笑しい小心ズの虜になった。腹がよじれるほど笑った」

Ubysey

「大人も子供も、パフォーマーもドラッグ好きも楽しめるショーに出くわすことはそうそうない。『ミスしゃっくりの幸せな一日』はそんな稀有な逸品。東京から来たクラウンが、可愛いらしくてとにかく可笑しい、テンポのいいパフォーマンスを見せてくれる。…歯を磨く、朝食の支度をする、トイレで用を足す、雨の中を歩くといった何でもない行動の一つひとつが、まさかこんなに笑えるとは。ファミリー向けの素晴らしいショー、いや、ファミリー向けと限定せず、ただ素直に素晴らしいショーだと言おう」

Monday Magazine

「笑いすぎて、頬がまだ痛い。コミカルな動き、ダンス、みごとな歌、そしてもちろん、しゃっくりがっぱいに詰まったテンポのいいショー。最初から最後まで元気っぱいのミスしゃっくりが観客を煽り、驚愕の想像力と切れのいい動きで爆笑の渦を巻き起こす。老若男女を問わずに楽しめる。楽しみ方を忘れてしまった不機嫌な大人にもおすすめ」

Plank Magazine

「何でもない出来事に潜むおかしみに気づこうともしない。そんな疲れ切った大人に、うれしいサプライズだ。まずは、当たり前が当たり前でないという意外な発見にびっくり。ミスしゃっくりと一日を終える頃には、彼女のことがたまらなく愛おしくなっている自分を知って、またびっくり」

CBC

「本物の技を見せてくれる。目線一つ、ステップの一步たりとも無駄がない。イカれたサプライズが満載」

The Montreal Gazette

「.....不可思議な魅力たっぷりの気まぐれな無言スラップスティック」

The Orlando Weekly

「感動とシュールの狭間で、ミスしゃっくりはいつでも幸せだ。一緒にいると、あなたもも幸せになる」

Archikulture

「.....この女性が見せる極些細なしぐさの中には、笑いとおのりの両方がある」

Elizabeth Maupin (オーランド劇評家)

「ハロー・キティを生んだ国から、それよりさらにキュートな何か、いや、人物がやって来た。東京のクラウンが見せる可愛くて楽しい動きの数々に、ほほえみと笑い声の絶える暇がない」

Orlando Sentinel